

視察等活動報告書

視察及び研修会における結果について、下記のとおり報告します。

令和 5年 7月 28日

光市議会議長 木村信秀 様

光市議会 副議長 笹井琢
(会派 こう志会 に同行)

記

- 1 日 程 令和5年6月29日(水)～7月1日(金)
- 2 場 所 埼玉県戸田市
埼玉県志木市
東京都港区新橋
- 3 テーマ 戸田市の教育改革の取り組み(戸田市)
健康寿命のばしマッスルプロジェクト(志木市)
[研修会]
大切な人を自死で無くすということ(NPO法人セレニティ)
- 4 視察結果 別紙のとおり

光市議会議員 笹井琢 研修報告書（会派 こう志会 に同行）

日 時	令和5年6月30日(金) 10時～12時
場 所	埼玉県戸田市上戸田1丁目 戸田市役所
テーマ	戸田市の教育改革の取り組み
講 師	戸田市教育長 戸ヶ崎勤 (中央教育審議会委員 初等中等教育分科会)



1. 教育改革前の状況

- ・人口増加が止まらない。「埼玉都民」が多く地域教育への愛着が低い。
- ・戸田市の小中学校を希望する教職員がほとんどいない。管理職登載者も不足。
- ・小中学校ともに学力と体力の平均低く、非行問題行動や不登校などが大きな課題。

2. 戸田市の教育改革

- ・「AIでの代替は難しい力などの育成」「産官学と連携した知のリソースの活用」「経験と勘と気合（3K）から客観的な根拠への船出」「授業や生徒指導等を科学する」
- ・様々な改革をSEEPプロジェクト「S:Subject（教科教育）E:EBPM（経験と勘と気合いから客観的な根拠へ）E:Edteck（教育とテクノロジーの融合）P:PBL（課題解決型学習）」の形に具現化している。
- ・クラウドファンディング活用「稼ぐ教育委員会」昨年は約500万円の資金を集める
- ・教育委員会の活性化の10の心構え「活性化と透明性」
(追伸に終始しない 壁をなくす努力・教育委員の案を頂く・資料は5日前迄)
- ・その他、不登校対策ラボラトリー「ばれっとラボ」を展開。

3. 質疑応答

PBL（課題解決型学習）を実施するに当たっては、CADなど専門的スキルが求められると思うが、教員で対応しているのか？

→ICT支援員がおり、専門的な支援を実施している。

不登校対策ラボラトリー「ばれっとラボ」で早期発見と支援はどう行われるのか？

→外部研究員6名、不登校を科学しようと試む。心の健康観察アプリ「シャボテン」を活用、データ収集し、可能性ある生徒に対し対応できるような仕組みを構築中。

4. 所感と光市政への反映

- ・教育委員会の運営の工夫明示とともに、定時退庁となるよう心がけておられる。
- ・不登校支援については「小学校教室ばれっとルーム」「中学校さわやか相談室」「高校内に生徒支援教室いっぽ」「市教育支援センターすてっぷ」「メタバース&アバターRoom-K」など多様な手段が選択できるようになっている。
- ・理念の明示は重要だが、横文字が多く全てを理解するには至らなかった。英文フレーズは日本語で表現できないか考える必要がある。



光市議会議員 笹井琢 研修報告書（会派 こう志会 に同行）

日 時	令和5年6月30日(金) 14時～16時
場 所	埼玉県志木市中宗岡 志木市役所
テーマ	健康寿命のばしマッスルプロジェクト
講 師	志木市役所 健康政策課 職員 議会事務局 北村竜一局長 小日向啓和次長



1. 健康寿命のばしマッスルプロジェクトについて

志木市は都心に近くで3本の川に挟まれ散歩や運動する人が多い。一方、心疾患や脳血管疾患の死亡率高く、健康寿命延伸を目指す取り組みとして、平成27年度から本プロジェクトを実施。特に筋肉の重要性に注目している。

- ①いろは健康ポイント事業：歩数計の無償貸与とポイント獲得による商品券交換
- ②健康になりマッスル教室：歩く・筋力アップ・食事の三位一体の指導

2. プロジェクトの成果と効果

- ・参加者の医療費削減への効果、後期高齢者の医療費の削減に繋がる。
- ・コロナ禍においても、参加者は高い歩数状況の維持した。
- ・専用端末画面に表示したり、YouTube動画配信によりコロナ禍の周知が出来た。
- ・厚生労働省健康局長自治体部門優良賞を受賞(平成28年11月14日)
- ・フジテレビとくだね！取材あり（平成29年4月27日放送）
- ・志木市いろは健康21プラン推進事業実行委員会が立ち上がり、健康寿命延伸及び健康づくりと賑わいの創出を目的とした事業を、市民の視点で展開中。

3. 新たな健康づくりの展開

- ①「志木っ子元気！子どもの健康づくり事業」小学校期の足部の筋力や形状、足爪、足指状態の計測を計測。子どもの体力や身体機能向上を目的として実施。
- ②「働く世代の健康づくり事業」20歳代～40歳代を対象として、体力向上や運動の習慣化、ストレスの緩和など目指す。民間活力とコラボして実施。
- ③ウォークフェスタやノルディック体験会を実施
- ④ウォーキングコースの整備や歩道快適化（段差解消）事業に取り組む

4. 質疑応答

- ・河童は何か？ → 志木市公認キャラ 市政の自由使用可
- ・健康ポイント利用人数は？ → 現状3000人以上で市内の7%
- ・コストは？ → 導入時3000万円×3年 運営は年1000万円




5. 所感と光市政への反映

- ・ベッドタウンは住民の福祉や健康が一番の施策になると認識。健康福祉サイドから商業振興や道路整備に繋げる熱意には好感を持った。
- ・健康増進が医療費低下に繋がるのか過去の国施策で失敗している部分であり、厳密な検証が必要。



光市議会議員 笹井琢 研修報告書（会派 こう志会 に同行）

日 時	令和5年7月1日(土) 9時30分～11時	
場 所	東京都港区新橋2丁目21番1号 会議室マイスペース新橋汐留口前店	
テーマ	大切な人を自死で亡くすということ	
講 師	NPO法人セレニティ 代表 田口まゆ	

研修会内容

1. 講師自己紹介

13才の時に父を亡くす NHKテレビ出演を機会に日弁連宇都宮会長が支援
2011年にNPO法人を立ち上げ、自死遺族当事者として活動する

2. 自死遺族への支援活動

自死遺族関係者は多いが、全部自分たちの責任と閉じ籠もってしまう方が多い
批判や評価ではなく、ただ自分の話を聞いてもらえる安心感が求められている
「自死遺族への差別偏見」というものがあることを多くの人に知ってもらう

3. 遺族の直面する問題

自死遺族の間で悲しみ比べが起きることが多い
賃貸物件の大家からから、莫大な原状回復費用を請求される事例が多々あり

4. これからの取り組み

家族や学校以外の第3の居場所（サードプレイス）が必要
遺族分ち合いの会やグリーフケアサポートなどに取り組む
一人一人の対話とコミュニケーションが重要である

5. 質疑応答

自死が発生した場合、自死遺族にどう接すればよいか？
→個人によって異なるが、コミュニケーションとることや話を聞くことが重要
賃貸物件の原状回復請求の目安は家賃3月分が適当と思うが事例あるか？
→もっと大きい額を請求された事例もあった 不動産関係者の基準があると助かる



6. 所感と光市政への反映

講師は日本でも数少ない「自死遺族の体験語り人」である 大切な人の自死は誰にでもおこりうる事象であり、これに直面し困惑されている方も多々おられる。体験を語る会やグリーフケアサポートなどの活動も少しずつではあるが広がってきている。不動産の現状回復費用については、不動産業界による指針が作成されることを望む。